

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2693500015		
法人名	社会福祉法人 京都南山城会		
事業所名	グループホーム涌出ぬくもりの里		
所在地	京都府木津川市山城町平尾里屋敷69番地4 (電話) 0774-86-0565		
評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】(平成 20 年 12 月 31 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6.5 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4)利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.1 歳	最低 68 歳	最高 89.9 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立山城病院、大西歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域福祉に根ざしたサービスを展開してきた社会福祉法人京都南山城会を母体とし、市北部の介護の拠点として設けられた小規模多機能事業所併設型のグループホームです。ホームは涌出宮神社に隣接し、地域の人や参拝者が気軽に立ち寄れるように玄関先のテラスにテーブルと椅子置いたり、ホーム内に喫茶コーナーを設けています。管理者は職員からの信頼も厚く、法人の雇用体制や研修制度の整備により、職員の離職もほとんどありません。また職員は併設の小規模多機能事業所と兼務することで利用者や地域との連携が図られ、理念でもある「一人一人に寄り添った」ケアを実践しています。ホームでは利用者同士が助け合う微笑ましい姿も見られ、職員がそれを手助けしながら、家族も含めて皆で一緒に支え合って生活されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題であったアセスメントシートの見直しや外部評価票の全員での取り組み等、できることから改善に努めています。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前は初回の調査でもあり、自己評価は管理者と主任で作成されていましたが、今回は、評価の意義を十分理解していただき、職員全員に白紙の調査用紙を配り、個々の職員のサービス向上に向けての振り返りの場として、また、今後の課題を確認する場として活用されています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、グループホームと小規模多機能事業所の家族、民生委員、市担当者、法人事務長、管理者、職員等が参加し、2か月に1度開催されています。会議は、利用者の様子やホームからの報告をはじめ、家族や参加者からの情報を得たり、意見交換の場として活用され、サービスの向上に活かされています。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱をホームの玄関に設置している他、家族会を年に1回敬老会の行事に合わせて開催し、その場でも意見や苦情を直接聞く機会を設けています。また年1回満足度調査を実施し、意見を集約し話し合った内容を法人に報告したり、外部の苦情対応窓口を書類に記載し、家族が意見を言いやすい基盤を作り上げています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣接する涌出宮神社で行われる夏祭りには計画段階から参加し、たこ焼きの屋台を出店しました。また、近くの小学校の運動会や学習発表会に招かれ交流を図っています。夏には子供会主催のラジオ体操にホームの敷地を開放したり、地域の方々に気軽に利用してもらえるよう無料の喫茶コーナーを設けるなど積極的な交流に努めています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の介護方針を基に職員全員で話し合い、利用者が地域の中で共に暮らせるように「一人一人に寄り添って」をグループホームの理念として掲げ、季刊誌に理念を掲載して、町内全戸に配布している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一人一人の生活を大切にするために何が出来るかを職員間で常に話し合っている。職員は理念を意識して利用者本位のケアの実践に向けて取り組んでいる。	○	職員間での理念の周知徹底や外部者に見てもらい意味でも、玄関やリビング、事務室等に理念を掲示されることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する涌出宮神社で行われる夏祭りには計画段階から参加し、たこ焼きの屋台を出店している。また、近くの小学校の運動会や学習発表会に招かれ交流を図っている。夏には子供会主催のラジオ体操にホームの敷地を開放したり、地域の方々に気軽に利用してもらえるよう無料の喫茶コーナーを設けるなど積極的な交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価については、アセスメントシートの見直しや自己評価を全員で取り組む等、できることから改善に努めている。今回の自己評価は、白紙の自己評価票を職員全員に配布し記入してもらい、管理者が集約し作成された。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、グループホームと小規模多機能事業所の家族、民生委員、市担当者、法人事務長、管理者、職員等が参加し、2か月に1度開催されている。会議は、利用者の様子やホームからの報告をはじめ、家族や参加者からの情報を得たり、意見交換の場として活用され、サービスの向上に活かしている。		

グループホーム 涌出ぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の出席はもとより、地域ケアセンター会議に出席し、山城町社会福祉協議会や地域包括支援センターの職員等との情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。地域包括支援センター職員にも運営推進会議への参加を呼びかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしぶりや健康状態、行事の予定、などを毎月ご家族に手紙で知らせている。家族の来訪時にもその都度報告している。金銭は立て替え払いにて収支報告と領収書を、毎月の請求書に添えて郵送している。また毎月の法人便りや季刊誌も発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をホームの玄関に設置している他、家族会を年に1回敬老会の行事に合わせて開催し、その場でも意見や苦情を直接聞く機会を設けている。また年1回満足度調査を実施し、意見を集約し話し合った内容を法人に報告している。また、外部の苦情対応窓口を書類に記載し案内している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全員を常勤雇用としている。日ごろより管理者が職員の相談に乗ったり、法人の事務長が相談を受けるなどし、離職者はほとんどいない。また勤務体制を併設の小規模多機能事業所と兼務することで気分転換にもなっている。新任の職員には、1か月程かけて利用者徐徐に馴染んでもらえるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、職員の希望を重視し習熟度に応じて管理者が人選し順番に参加している。研修後は報告書を作成し職員会議等で発表し、資料は閲覧用に整理されている。また法人のいくつかある委員会のいずれかに全職員が参加し、勉強会を開催する等、働きながら学ぶ機会が確保されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にある法人内の他ホームとの交流がある。管理者は府内で実施される研究大会などに参加し、情報交換を図ってる。	○	現在、京都府内の他ホームに働きかけ施設見学や職員同士の交流を計画中とのことなので、実現できるよう検討され更なるサービスの向上に向けて取り組まれることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、空き部屋があれば体験入所も可能となっている。また入所前には必ず本人・家族に何度かホームに来てもらい、入居者と一緒に過ごす時間を設けホームに馴染んでもらえるよう心がけている。その際、家族を交えて具体的に情報収集すると共に、入居後も利用者本位の生活が継続できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「一人一人に寄り添って」という理念のもと、職員は日々共に過ごすことで料理の方法や、草花の水やりのタイミング、ゴーヤやイチゴの栽培方法などを教えてもらったり、庭の手入れや、散歩を楽しむなどしながら学び、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム独自のアセスメント表を用い、普段の会話や生活の中から引き出した思いや、ご家族からの情報や希望などを書き留め、常に意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を基にホーム独自で作成した「できること・できないことシート」を活用することで思いを把握し、カンファレンス時に原案を作成した後、ご本人やご家族を交えたサービス担当者会議を開催し、意見や希望を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画をわかりやすく明記した「行動実施表」に毎日の実施状況を記録し、1か月ごとに評価し、6か月ごとに計画の見直しを行っている。また、状態に変化があった場合は、期間に関係なく新たな介護計画を作成している。	○	様子や希望等に変化がなく、計画を継続する場合は、作成日に見直した日付を記載する等して、計画の見直しをされたことが誰が見てもわかるようにされることが望まれる。

グループホーム 涌出ぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院への付添いや、利用者の希望による個別の買い物などの外出に柔軟に対応している。また、通院は、家族が行っているが、認知症の専門医を紹介し、初回の受診に同行するなどの支援をしている。また、常に家族が利用者との良い関係が継続できるような支援を基本に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院もあるが、どの利用者もかかりつけ医については、以前のを主治医を継続して受診している。日々の健康管理はホームに常駐している看護師が指示し、緊急時や夜間はそれぞれの主治医に連絡をとり指示を受けて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の対応については記載し書面に、契約時に説明している。法人全体でターミナル委員会を設置しており、希望があった場合には施設の方針に基づいて、ご家族やかかりつけ医、看護師とも相談し、利用者にとって一番適切な方法での支援を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は会議等で一人一人の人格を尊重することやほごりや自尊心を傷つけないような言葉かけをするよう話し合っている。管理者は気になる言葉かけを耳にした場合は個別に注意をしている。また個人情報は1階事務所の鍵付きの棚で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課は特に決めていない。朝食時間についても、個々のペースに合わせた支援をしている。掃除や庭の手入れなどできることを職員と一緒にしたり、部屋で手紙を書いたり、リビングでテレビを見たりと利用者は好きな場所で自由に過ごされている。		

グループホーム 涌出ぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は食材業者の献立に沿って食材が届き、朝食と夕食は職員と利用者で考え、一緒に買い物に出かけている。利用者は皮むきや下ごしらえ、後片付け等を手伝われ、職員と同じテーブルで話をしながら楽しく食事している。おやつは、個々の希望を聞き一緒に買いに出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1時から3時頃を目安に1日おきに入浴されている。希望があれば毎日の入浴も可能である。体調に応じてシャワー浴や足浴、清拭等の対応もしている。利用者は、入浴を拒否されることなく、楽しみにされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や調理、洗濯たたみ、花の水やりや草抜き、落ち葉掃きなど各個人のできることを役割として支援するほか、歌集を作って、歌を歌ったり、散歩やドライブ、花見や夏祭りなどの行事、また、家族を交えて平安神宮への参拝や友禅染の体験などの日帰り旅行に出掛けるなど様々な楽しみ事を支援を企画し、実施されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝食や夕食などの食材の買い物は、毎日利用者と一緒に出かけている。また、散歩に行ったりポストに手紙を投函に行くなどの個別支援も行っている。外出しない日はホーム玄関先のテラスで日光浴をしたり、庭の草花を楽しんで過ごされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、施錠することの弊害を理解し、家族も同意のもとで日中は鍵をかけないケアを実践している。利用者が外に出たそうになっている場合は、職員が必ず付き添って散歩等に出かける支援を心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備え、年2回消防署立会いのもと、併設の小規模多機能事業所と合同で昼夜を想定して避難訓練を行っている。法人施設での心肺蘇生やAEDの研修に参加している。また、地域の消防団とも合同訓練の計画を進めている。		

グループホーム 涌出ぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、刻み食などの形態にも対応している。摂取量は各職員がしっかり把握し、その時々にあった内容で提供している。脱水予防のため、食事以外にもお茶を飲んでいただいたり、コーヒータ임을設け常に水分摂取していただけるよう配慮している。	○	食事量や水分量の把握については、特に問題のない方については記録をされていないが、後で確認したり、家族に対する報告資料として記録に残してはいかがでしょうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には季節の花を植え、テーブルにも花を飾り、季節を感じる事が出来、廊下にはソファや椅子を配置し、居室だけではなく、個々にくつろげる空間となっている。4か所あるトイレは扉の開き方やとっての位置、便座の高さが違い、個々にあった工夫がなされている。また地域の人が気軽に立ち寄れるように玄関先のテラスにテーブルと椅子を置き、ホーム内に喫茶コーナーを設けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、ご入居者の表札が掛けられており、居室内は、ご本人や家族と相談し、使い慣れた家具や好みの装飾品、仏壇などご本人と馴染み深いものを置き、過ごしやすく工夫されている。希望により和室対応も可能となっている。		